

大鹿村中央構造線博物館たより 123号



2019年8月発行

TEL:(0265)39-2205
staff69@mtl-muse.com

南アルプスジオパークの市町村間地域交流

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの範囲は、伊那市・飯田市の東部、富士見町の南部、大鹿村全域を含み、とても広大な面積を誇ります。大鹿村から隣の市町村のエリア内に行くには、国道152号線を通して、峠を越えて行かなくてはなりません。そのため、市町村をまたいだ交流は盛んとは言い難い状態ですが、南アルプス(中央構造線)ジオパークの活動を通して、いくらか交流が図られています。

6月17日(月)には、伊那市の東春近公民館、西春近公民館の青いケシツアーご一行様が、大鹿村に来られました。午前中は、中村農園で青いケシの花を見て、塩の里食事処ふじで昼食の後、午後は、市場神社と安康露頭の見学をするという行程でした。東春近公民館、西春近公民館では、数年前に、河本学芸員が講演を行ったことがあり、参加者の方々は、そのときのことを覚えていてくださったようで、今回のツアーに博物館の見学が組み込まれていないことを残念がっておられる方もおられました。安康露頭の見学中も、次々と質問が飛び交い、見学時間が足りないというお声をいただくほどでした。



写真1 伊那市公民館ツアー安康露頭見学風景1



写真2 伊那市公民館ツアー安康露頭見学風景2

7月18日(木)には、富士見中学校のご一行が、大鹿村に来られ、河原の石の観察と、中央構造線博物館・ろくべん館の見学をしました。まず小渋川の河原にて、各自、一つ気に入った石を見つけてみて、後ほど博物館の岩石標本と照らし合わせて、どの種類の石が同定してみようということになりました。小渋川は、先日の大雨で川の水量が多くなっていましたが、小渋川右岸側(大鹿小学校側)の小渋橋のすぐ下流のあたりは、河原の石を観察するのに十分なスペースがありました(写真3)。博物館の展示室では、中央構造線を挟んで内帯側の岩石の標本が赤いカーペットに、外帯側の岩石の標本が青いカーペットの上に、それぞれ置いてありますが、小渋川の小渋橋より上流は、すべて外帯側なので、皆さん青いカーペット側(写真3右側)で、自分の見つけた石と同じ岩石を探していました(写真4)。



写真3 富士見中学校校外授業風景その1
(小渋川河原)



写真4 富士見中学校校外授業風景その2
(博物館内)

このように、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの活動を通して、周辺市町村の方々が大鹿村に親しんでくださる機会が増えているように思います。現在は、国道152号線地蔵峠が通行止めということで、大鹿村から南に進むことが難しい状況ではありますが、機会がありましたら、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの他の市町村域に出かけてみられることをお勧めいたします。(宮崎)

大雨で増水した小渋川

写真5は先月の博物館たより122号に掲載した今年6月20日時点の小渋川の様子です。川が左岸側(博物館側)に寄って流れているのがわかります。一方、写真6は今年7月4日朝の小渋川の様子です。大雨で増水した小渋川は、川底いっぱいになり、水の色も、灰色に濁ってしまっています。写真6右端の一段高い河川敷は、大鹿歌舞伎春の定期公演時の駐車場として整備されたばかりの場所ですが、ここまで水が流れており、整備したばかりの敷地の一部がえぐれてしまいました。(宮崎)



写真5 小渋橋から下流側の小渋川
(2019.06.20撮影)



写真6 小渋橋から下流側の小渋川
(2019.07.04撮影)